

「フロンティア領域の探索・重点支援のための GX イノベーション・エコシステム構築事業推進に係る検討」公募に係るQ&A

No.	質問	NEDO回答
1	「海外の野心的な研究開発を支援する事業」ですが、具体の事業名があればご教示ください。 また、この事業は海外の企業や大学をNEDOが直接支援するものでしょうか。それとも国内企業や大学が海外企業・大学と連携して研究開発を行うことを想定したものでしょうか。	「海外の野心的な研究開発を支援する事業」の例として、各国のARPA型プロジェクトや懸賞金型事業を想定しています。 一般的に、NEDO事業に応募申請できるものは、研究開発事業の場合、原則日本の企業／大学等であり、また懸賞金型事業の場合、日本に籍を有する者（法人、個人、グループ）としておりますが、必要に応じて、海外企業・大学等と連携した開発や懸賞金への応募も実施することができるとしております。
2	最大3回程度のイベントですが、上記事業の定義に合わせて、想定する参加者の範囲があれば（国内企業か、国内および海外の双方か、海外企業対象であれば海外企業や大学のみ参加もあり得るのか）伺えますでしょうか。	1の回答のとおり、主体は国内企業となるため、国内企業の参加は少なくとも必須となります。今後詳細について検討して参ります。
3	「NEDOの既存事業の情報」とありますが、これは貴機構より一式の提供があるものと理解してよいでしょうか。 その場合、想定される具体的な情報の内訳、および資料の形式（Excel、PDF等）を共有いただくことは可能でしょうか。	本事業を推進するに当たり必要な情報は、適宜共有させていただく予定です。
4	「研究開発テーマ等を定量的又は定性的に評価する資料を検討し、PDに提案する」とありますが、この提案内容は（3）における有望な研究テーマ等の提案と同じものでしょうか。	別のものになります。仕様書(2)の「研究開発テーマ等」は、インテリジェンス基盤の整備のためのものであり、仕様書(3)の「有望な研究開発テーマ等」は、フロンティア領域の育成に関する戦略の策定支援のためのテーマを指します。
5	戦略策定における「社会実装」は、当該技術が製品・サービス等を通じて社会に広く普及し利用されている状態を目指す（小規模でも社会で活用されているという状態ではない）、と考えてよろしいですか。	「社会実装」とは、研究開発成果の持続的な事業化（当該研究開発に係る商品、製品、サービス等の販売や利用）によって、新たな市場が創造され、社会課題の解決に寄与する状態を指しています。
6	2025年度の2領域程度の支援について、対象は先導で公募済の極限マテリアルおよび地下未利用資源の採択事業の支援を想定されますか。これに限定しない場合、支援対象となる企業の既存採択状況または今後の採択予定をご教示ください。	2025年度に支援を行うことを想定する2領域は、先導研究プログラム／フロンティア育成事業で公募・審査中の、極限マテリアル（パワーレーザー、高温超伝導）及び地下未利用資源／天然水素の採択事業を想定しています。
7	領域ごとの採択数の目安があれば、支援対象企業数の参考としてご教示ください。	領域ごとの審査結果によりませんが、領域毎に数件のイメージです。
8	外部アドバイザーへの委嘱について、謝金額や支払いタイミングは、受託者の内規にもとづき定め運用することよろしいですか。	委嘱した外部アドバイザーへの謝金の支払いは、受託者の委員謝金支給規程等について基づいて運用いただくこととなります。検査の際にも規程等や運用内規を確認させていただきます。 なお、外部アドバイザーの選定に当たっては、NEDOと調整の上、決定させていただければと存じます。
9	最終報告会の使用言語は日本語英語どちらも可、ということですが、両方必須という意味か、日本語または英語だけでもよいか、確認させてください。	どちらかのみで問題ございません。ただし、仕様書記載の通り、NEDOの要請があれば日本語で説明可能な者の同席を必須とします。
10	合わせて、最終的報告会の聴衆について、上記言語の設定の背景としてどのような想定でいらっしゃるか、現時点の考えがあれば共有いただけますか。	報告対象は、NEDO + αになります。上記言語を設定させていただいたのは、受託者によっては英語の方が効率が良い場合に加え、聴衆に英語ネイティブがいることも想定し、英語も可としています。
11	インテリジェンス基盤はハード・IT基盤は想定しているのか、あるいはソフトの知識インフラの想定でしょうか。	基本的にはシステム開発にコストをかけるよりは募集で集まった情報の体系的整理を想定します。ツール活用は否定しませんが、フロンティア育成事業につながるものを評価することが最優先です。
12	「領域（GX分野フロンティア領域）」と「研究テーマ」等の単語の解像度を確認させていただきます。使い分けは以下の理解であっておりますでしょうか。 ※領域：公募要領の脚注2に定義がございしますが、これはすでに領域が決まっているものでしょうか。それとも提案させていただくものでしょうか ※研究開発テーマ／研究テーマ：先導で募集中の「極限マテリアル」や「地下未利用資源の活用」、等の単位 ※研究開発課題：「産業用高温超電導電磁石開発に資する集合導体化技術の開発」等の具体課題	・領域：NEDOにて決めて参ります。 ・研究開発課題：領域に含まれる課題になります。例えば、極限マテリアルのパワーレーザーや高温超伝導になります。 ・研究開発テーマ：研究開発課題を解決するためのテーマとなります。
13	上記と関連して、PDは各フロンティア領域ごとに配置とのことですが、配置されるタイミングのめどはございますか。	5月末以降を予定しております。
14	今後のRFIの実施予定時期の想定があればご教示ください。	例年通りであれば7～8月に実施し、8月末頃に締切・ローデータが揃う想定です。但し、実際の実施タイミングには前後がある可能性があることをご承知おきください。

15	<p>(3) フロンティア領域の育成に関する戦略の策定支援において、研究開発テーマ等の提案は、初年度の初期に集中的に検討を行うことを想定されているでしょうか。あるいは、2年間にわたり段階的に提案（例えば初年度に3領域、2年目に3領域、等）されることを想定でしょうか。提案の裁量の範囲ということであればその旨ご教示いただければと存じますが、その場合1年目/2年目の予算配分を調整することも含めて提案させていただくことは可能でしょうか。</p>	<p>1年目から6領域程度の検討を進めることを想定しております。</p>
16	<p>領域> 課題> テーマ、の粒度であり、例えば以下のような関係。研究開発テーマは先導研究の別添1資料にある技術テーマと同じ意味。この理解であっていますか。</p> <p>※領域：極限マテリアル ※課題：産業用高温超電導電磁石開発に資する集合導体化技術の開発 ※テーマ：電磁応力や巻線時の応力に耐える集合導体設計技術の開発、集合導体として従来を超える長尺化を実現する技術の開発、交流損失の低減と製造容易性の両立を実現する集合導体化技術の開発</p>	<p>領域、課題、テーマに関して、ご理解の通りです。</p>
17	<p>各領域について5～10のテーマを提案するとありますが、課題はどのように設定されるのでしょうか。受託者が提案したテーマをもとに、先導研究の公募要領を作成される際に複数のテーマを束ねて課題を設定するような考え方になりますか。テーマの検討時に課題で束ねた整理を受託者で行う理解でよろしいでしょうか。</p>	<p>仕様書3. 内容(3)に記載の5～10のテーマ等の提案については、「課題」レイヤーでの提案も可能ですし、特に有望な「テーマ」レイヤーまで特定可能な場合は、テーマレイヤーでの提案も可能と想定します。実際の事業では、PDと協議の上で提案をお願いします。</p>
18	<p>6領域とありますが、極限マテリアルと地下未利用資源の活用、の2領域は既に決定しており、残り4領域を新規でNEDOにて設定する。合わせて6領域についてテーマ検討を行う、というスコープと理解してよろしいですか。残り4領域の候補について、NEDOで既に公表しているものがあれば恐縮ですが共有いただけますでしょうか。</p>	<p>2領域についてはすでに決定済みで、残り4領域をNEDO側で設定するというのはご理解の通りです。但し、残り4領域の検討過程に際しては、受託事業者様に検討に際する支援を行っていただく場合があります。</p>
19	<p>受託者の側から、設定すべき領域を提案する余地はあるでしょうか。</p>	<p>一義的にはNEDO側で設定を行いますが、上記検討過程の中で、受託者様側から設定すべき領域に関してご提案いただく余地は一部ございます。</p>
20	<p>(4) でいう「戦略」の対象を確認させてください。領域単位での産業育成に係る戦略でしょうか。それとも研究開発テーマ単位での事業戦略のイメージでしょうか。いずれとするかは、提案の裁量にゆだねられている範囲のものでしょうか。(研究開発テーマの事業戦略は(5)の伴走支援でも実質的に行うものと理解しております)</p>	<p>領域単位での産業育成と研究開発テーマ単位での事業戦略の双方を含むイメージです。但し、いずれか一方に寄るものではなく、有力テーマの社会実装に資するマクロ・ミクロ双方の視点を含む戦略策定を現時点では想定しています。詳細については、事業内で協議の上で実施いただくこととします。</p>
21	<p>調査内容4項目について配分の想定はありますか。</p>	<p>提案次第とします。SIP・ARPA-Eも参考に最適と思われる提案をお願いします。</p>
22	<p>(4)の伴走対象となる支援事業は既存支援事業への支援を想定するか、それとも今後立ち上がるものが対象でしょうか。</p>	<p>「2領域」についてはすでに立ち上がっているもの、6領域程度については今後立ち上がるものです。伴走支援は新たな取組として、社会実装までの支援に向けて、SIP、ARPA-EのようにPDを置いてアジャイルに実施する体制(PD、PD補佐、T2Mなどの体制)を整備していただきたいです。</p>
23	<p>提案書の提出方法に関してWordではなくPowerPointでもよろしいでしょうか。</p>	<p>大変恐縮ですが、公募HPに掲載のWord形式でのご提出をお願いいたします。</p>